



不撓不屈

今年を振り返って

北海道新十津川農業高等学校長 仲川 敏 幸

今年も残すところ、あと数日となりました。振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症対策を継続的に実践しながらも、一通りの学習活動を進めることのできた一年でした。年度始めの4月より新型コロナウイルス感染症の第4波が到来し、6月下旬に一旦収まりましたが、直後には第5波が9月末にかけて到来。各地の学校においては感染が確認され、学級閉鎖や休校措置が取られていました。幸いなことに、本校においては対策を取りながら通常の学校生活・教育活動の展開ができました。

そのようなコロナ禍においても、農業クラブの校内大会については意見発表、技術競技、実績発表と一通り開催できました。上位大会については意見発表がビデオ提出による開催。技術競技は中止となりましたが、実績発表は今後集合型で開催する予定です。何よりも昨年度は中止となった全国大会が兵庫県で開催され、2名の代表生徒を送り出すことができました。春の苗販売や収穫祭での生産物販売、クリスマス販売会などの行事も、販売対象者を限定しながら実施してきました。今年度の様々な活動については、朝夕のTVニュースで6回取り上げていただいた他、夕方の民放番組においても複数回本校生の活躍が報道されており、新聞報道も含めて多くに方々に知っていただけていると思います。

様々なことがあった一年ですが、生徒は農業高校での学びを生かし、着実に結果を出してきました。生徒自身による努力が最も大ではありますが、ご家庭での生徒へのご指導及び励まし、関係機関や地域の皆様からのご指導・ご助言などを抜きにすることはできません。

令和3年が、保護者の皆様、地域の皆様、そして関係機関の皆様方からご支援をいただきながら、教育活動を展開できましたことに、心より感謝申し上げますとともに、穏やかな新年を迎えられますことを祈念いたします。

実績発表大会



12月9日、農業クラブの三大事業の一つ、校内実績発表大会を行いました。専門分会ごとに研究活動を行ってきた取り組みを発表するものです。一年生の農業と環境専門分会と、2・3年生の水稻・野菜・園芸・加工・生活・食物の6専門分会が一年間の成果を発表しました。昨年からコロナの影響で、緊急事態宣言など、外部との交流ができなかったり、いろいろと制限の多い中での活動となりましたが、できることを精一杯行ったことが伝わる発表でした。

また、農生会執行部から農業クラブ活動発表、兵庫県で行われた農業クラブ全国大会に参加した二人からの報告もありました。

2 学年見学旅行

11月1日（月）から3日（水）の2泊3日で2 学年見学旅行を実施しました。

今年度は10月に予定していましたが、実施日をずらすとともに日数も減らし、行先も変更しての実施となりました。見学旅行は集団生活を通して協力や尊重の精神を学ぶこと、日本の歴史・伝統文化に触れ、日本古来の風土を学ぶこと、原爆や戦争の惨状を知ることにより、平和学習を深めることを目的やねらいとして実施しました。

3日間とも天気に恵まれ、充実した研修により所期の目的を達成することができました。



クリスマス販売会



12月16日（木）本校農場においてクリスマス販売会を実施しました。本校農場で生徒たちの実習活動によって生産したお米や野菜、鉢花、農産加工品などを生徒たちの手によって販売しました。今年度は販売会については本校保護者のみに限定していましたが新十津川町内在住の一般の方まで対象を広げた形で実施することができました。

思春期保健セミナー

11月29日（月）新十津川町保健福祉課から保健師2名の方々に来ていただき、3年生を対象に保健セミナーを実施しました。妊娠や出産、性感染症などについて学び、生命の大切さを再認識し、生涯を通じた健康づくりの意識を高めることができました。



農生会年度末総会



12月22日、農生会年度末総会を行いました。執行部、委員会、専門分会、部・同好会活動の活動を確認、質疑応答も活発になされていました。生徒からは生徒会のイベント、自動販売機、トイレ、更衣室についての要望が出され、執行部から丁寧な回答がなされていました。

総会后には執行部による、農生会ポイント（農生会活動への取り組みをポイント制で評価する制度）の表彰、レクリエーションも実施。楽しい取り組みとなりました。次年度はさらに活動が活発になればよいと思います。